



みんなの水泳……日々徒然

2012年夏 …ロンドンパラリンピック滞在記

はじめに

パラリンピック特集等で連載が2回お休みになっていましたが、今回は、IPC クラス分け会議などパラリンピックイヤーの様々な取組みを紹介しました。

今号では、水泳競技のチーフクラスファイアーとしてロンドン2012パラリンピック競技大会に参加させていただいた私が、大会で見たこと、感じたことなどをお伝えしたいと思います。



トラファルガースクエアもIPCロゴで、街中いたるところにロゴがあったロンドンパラ



ロンドンブリッジもIPCロゴ付き。パラリンピックマスコットのマンデビルも街中いたるところに立っていたんですね

ロンドンに向けて…

ロンドンパラリンピック大会の概ね1年ほど前、2011年夏にIPCからチーフクラスファイアーの打診がありました。務めることを受け付けてから、本番まで、メール等で諸々の準備が進められていきました。クラス分けそのものの準備以外にも、渡航スケジュールなども、10か月前くらいから調整が始まります。

多くの国が国費で代表選手を送り込むこのパラリンピック大会は、メディアへの露出度も高く、IPCとしても、ロンドン入りからのクラス変更を望ましいものとは考えていません。IPCは、できるだけパラリンピック前にクラス分けをすませておくことを推奨し、そのために様々な努力をします。

しかし、今回のロンドンでは、水泳に関しては、プロテストやレビューなど、前回の北京大会に比べて、おおよそ倍のクラス分けが実施されました。

ロンドン滞在スケジュール

今回は水泳の場合、競技会に先立って3日間のクラス分け日程が設定されていました。渡航などを含め、私のスケジュールは次のようなものでした。

- ・8/23 羽田泊
- ・8/24 早朝便でロンドンへ、空港からは組織委員会のバスで選手村入り
- ・8/25 IPC Swimming関係者との会議、およびユニフォーム合わせなど。
- ・8/26 クラス分け第1日

- ・8/27 クラス分け第2日
- ・8/28 クラス分け第3日

クラス分けは、3日間とも非常にヘビーな内容が続きました。朝は8時から業務開始しますが、予定時間を大きく超え、毎日夕食は10時を過ぎていました。北京大会に比べ、クラスファイアーの数を減らしていたことも大きく響きました。また、上訴への対応でロンドンの中心まで出かけていくこともあり、監督者会議に出られないほどのスケジュールで、緊張した毎日となりました。



競技会場内の水泳クラス分け関係者のオフィス。来る日も来る日もここでディスカッションしました



ドアの横にもマンデビル。こういう遊び心は嬉しいですね



私には、とにかく寒い開会式でしたが、両隣のクラスファイアーはカナダとアイスランドの人で、全然平気なようでした



セッション開始前の決められた時間には、こうやってプールサイドに待機して、タイミングチェック等の対応をするのも業務のひとつ



競技観戦している席からはこんな感じ

入る日もありました(4)。午後は3時過ぎに選手村を出て、決勝用の公式ユニフォームに着替えて午後4時から業務開始です。すべてのレースと表彰式を終え、プールを出るのはだいたい午後9時過ぎでした(5)。日によっては、決勝セッションの後にIPCとのミーティングが入ります。期間中、数回のミーティングが行われましたが、ロ



競技会場内のIPC Swimmingのオフィス。日々起こる様々な問題について、たくさん話し合いが行われました



競技観戦中…えらく険しい表情です…。大会期間中、実に様々なことがあり、フェアネスを守りたい気持ちから、こんな表情になることもありましたが、ひとりだけ違う方向を見ているわけではなく、大型スクリーンのリプレイを見ている

ドン入りして、まったく休みなしの毎日のなかで、精神的にも体力的にも非常に大変でした。

- ・9/9 AM4時に選手村出発～帰路へ
- ・9/10 早朝に羽田到着～自宅へ

競技最終日の決勝セッション後、残務処理してプールを出たのが午後9時過ぎでした。夕食をとり、飲み物とチョコレートな

選手村滞在…

オリンピックでは、競技役員と選手は倫理上同じ選手村に滞在するのはよろしくないということで別だったようですが、パラリンピックは競技役員も選手村に滞在しました。私の滞在中には競技役員しか入っていないようでしたが…。

私のアパートメントには6畳程度の部屋が2つあり、他のクラスファイアーとシェアしました。つまり、一人1部屋ですね。それに小さなリビングスペースとバスルームがありました。

食堂も選手と同じ食堂を利用しました。クラス分けの時には、結果に満足しない選手が稀に泣いたりもするのですが、その選手と食堂などで会うのも、お互いそれぞれの役割を理解しているとはいえ、あまり理想的ではないかもしれません。

もちろん、スポーツマンらしく、すべて終われば笑顔で挨拶できる選手やコーチもたくさんいます。

国際力って…

大会で感じたことのひとつに、各NPCなり、各代表チームの国際大会での立ち居振る舞い方の違いがあります。各国のNPC関係者や水泳連盟等の関係者が、こぞってTDやチェアパーソンに挨拶に来て、自国の状況を伝え、最新の情報を得ようと様々な関係者と積極的に交流している姿を多く見かけました。競技力はまだ低い国でも、しっかりと交流できている国も少なくありません。

国際大会には、様々なスキルと応用力が必要とされますが、それを「国際力」と表現するならば、現時点では必ずしもメダルの数と国際力は一致していない部分があると感じました。日本にはシャイな性格の人が多いですが、しっかりと国際力をつけて、世界の流れに乗っていく必要があると感じます。

また、国によっては、選手団にスポーツ関係の法律専門の弁護士が帯同しているケースもありました。クラス分けを含めて、様々な場面ですぐに弁護士にコンタクトをとるようなケースも少なくないようです。もちろん、選手にエージェントと弁護士がついているようなことも増えてきているようです。

NPCとして、内容には賛成していかなくとも、選手の権利としてプロテストやアペールをするようなケースもあるのが現状です。それをしなければ、例えば、帰国してから、選手がスタッフを訴える、そのようなことが実際に起こり得ることなのでしょう。

どで仲間と語っているうちに、出発の時間が近づき、あわてて荷造りし、午前4時に部屋を出て、空港へ向かいました。

選手団のみなさんが閉会式で盛り上がっている最中に羽田に到着していた計算です。報告などは日本に帰国してからこなすこととなります。

メディアなど…

世界選手権を含め、他の国際大会とはやはり格が違うのがメディアの露出度です。

ある国のあるメディアは、「NE (non eligible)」の理解が不十分だったのか、「障害が競技するに値しないほど軽い」と記事に記載していました。

実際は、異なる事由でNEとなっていたわけですが、詳しい規則やクラス分けのしくみを知らないままそういう表現になったのでしょうか。まだまだパラリンピックの様々な事項は認知されていないのだとあらためて感じました。

競技会場周辺を盛り上げていたのは…



選手村とプールは徒歩15～20分くらい。毎日こんな感じで歩いて通いました。今思うと、いい気分転換の時間でしたね

今回は、競技会場まで徒歩で20分程度の移動でしたので、移動による時間のロスが少なく済みました。また、ショッピングモールやレストラン街を通り抜けていくことになるのですが、そこで見る各国からのいろいろな人達の楽しそうな様子に毎日癒されながら歩いてきたように思います。

印象的だったことのひとつに、道案内ボランティアの方々のユーモラスな声掛け、笑顔、ハイタッチするなどの明るいアクションの数々…があります。

「さあ、今日も雲がたくさんかかっているけど、それを除けば、すっごくいい天気だね! (実際はどんよりとした曇りですけど… (笑)) 楽しんでるかい? さあ、水泳見に行く人は手を挙げて～イエーイ! 陸上競技に行く人も手を挙げて～イエーイ! いい日になりますように!!」など、駅を降りて競技会場に向かう人々を明るい気分にさせてくれるボランティアさんにも癒されました。東京でパラリンピックが開催されるとしたら…どんな雰囲気になるのかな、ふと、そんなことを思ったりもしました。

日本から競技役員として…



今回のクラスファイアー仲間と。ジェットコースターに乗っているような毎日でしたが、絆と信頼がさらに強くなりました! 心から仲間感謝です

今回、私を含めて、9名の日本人がロンドンパラの陸上競技、水泳、ゴールボール、柔道、パワーリフティング、車椅子バスケットボール、ウィルチェアラグビーなど様々な競技に国際競技役員として参加しました (TD1名、国際審判員6名、クラスファイアー2名)。2005年から始まったJPCの国際競技役員の養成事業などの取り組みの成果なのだと思います。

次回は…

障害のある水泳選手を取り上げて、泳ぎや水泳に関する取り組みなどを紹介していく予定です。

水泳を始めたきっかけや、選手になるまでに経験してきたこと、どんな障害があると何をどんな風にとらえて泳いでいるのか、また、技術やスキルを磨くのにどんなことに気をつけているのかなど、いろいろなことを紹介したいと思います。